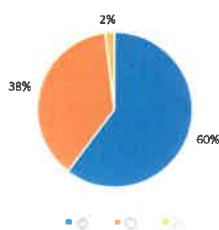


保育所自己評価・12月集計表（さつき認定こども園）

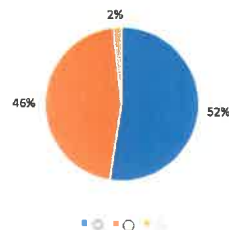
	◎	○	△
1. 保育指針の理解	94	59	3
2. 発達援助の基本	150	131	5
3. 健康・保健・食事	76	36	0
4. 保護者との連携	90	67	10
5. 地域との関わり	61	46	24

◎：とても良い ○：良い △：配慮しましょう

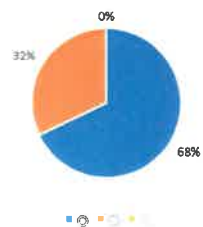
1. 保育指針の理解



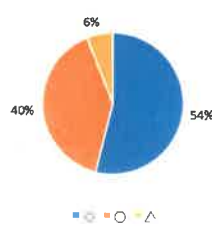
2. 発達援助の基本



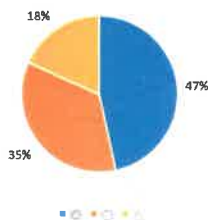
3. 健康・保健・食事



4. 保護者との連携



5. 地域との関わり



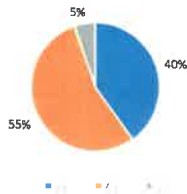
総評

1. 保育指針の理解	前期に引き続き、全体での研修を行っていない状況は反省。学べる機会をもてるように努力する。 個人間では、確認し合ったりしているので、一人ひとりが学びたいとの意識は高い
2. 発達援助の基本	後半のクラスの取り組み、目標等を各クラスで話し合い、リーダー会議で伝えあう。進級までに…進級に備えて…の意識が高くなりがちなので、個々の発達状況を理解しながら「こうあらねばならない」の思いが全面に出て、達成を目標にしたクラス運営にならないようにしていくことを確認しあう。
3. 健康・保健・食事	0歳児の子がアナフィラキシーショック寸前で救急搬送された。搬送される数日前から湿疹等が出ており、保護者と病院受診を進めながら密に連絡を取り合っていた。少しの変化も見逃さず対応できる我々でいたい。これくらいは大丈夫だろうの意識はなくし、気になったら直ぐに対応していく。
4. 保護者との連携	保護者が相談できるような環境を各クラス行っており、保護者とのやり取りや気になる事をリーダーが主任・主幹までしっかり伝えているので、主任・主幹からも保護者へ声掛けができています。園全体で、全園児への関りができるよう、今後も工夫していきたい。
5. 地域との関わり	お散歩中、ご近所さんのお庭に実っている実を眺めていると、収穫時に貰いにおいてと声をかけられたり、近所の畑でじゃがいも堀をさせてもらったり、保育士自らご近所さんに声をかけ交流を持っている。今後もこのような機会をどんどんふやしていきたい。

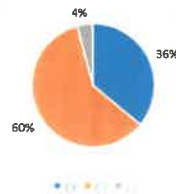
保育所自己評価・5月集計表（さつき認定こども園）

◎：とても良い ○：良い △：配慮しましょう	◎	○	△
1. 保育指針の理解	60	82	8
2. 発達援助の基本	95	158	11
3. 健康・保健・食事	29	69	2
4. 保護者との連携	53	60	36
5. 地域との関わり	7	43	25

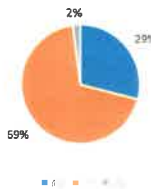
1. 保育指針の理解



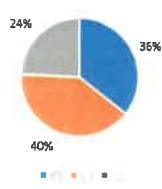
2. 発達援助の基本



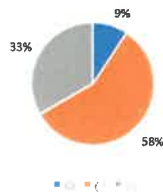
3. 健康・保健・食事



4. 保護者との連携



5. 地域との関わり



総評	
1. 保育指針の理解	保育指針について学びたいが、なかなか機会を設ける事ができていない。職員個々が自身で研鑽している状況である。園としても、もっと学べる機会を工夫していきたい。
2. 発達援助の基本	一人ひとりにあった関りを意識して取り入れられているか、毎月の職員会議（クラス会議）の中で話し合ったり確認しあっているが、課題はたくさんある。保育士間の何気ない会話の中にも園児一人ひとりの話題が沢山出てくるよう、それが子どもを知る＝援助につながるのだと思う
3. 健康・保健・食事	毎朝の視診をしっかりと行い、家族と健康面の共有をしていけるようにしている。 園に慣れていない新入園児や、クラス・担任が変わりまだ落ち着いていない園児等、一人ひとり違うので、ストレスにならないよう個々の状態を把握していく。
4. 保護者との連携	保護者の困り感に寄り添えるような保育を行っているか、職員一人ひとり意識して、関わっていけるようにする。
5. 地域との関わり	老人ホーム訪問等、コロナ禍前まではできていたことがなかなか出来ないで、他に方法はないか工夫が必要。